

市来農芸高等学校

地域社会や時代の要請に応える个性的で協調性のある創造性豊かな人材の育成を目指して

令和3年4月
新学科スタート

環境園芸科 畜産科 農業科



本校は昭和9年に「鹿児島県立市来農芸学校」として設置され、今年度87年目を迎える歴史ある学校です。昭和39年には自営者養成農業高等学校の文部省指定を受け、さらに平成10年からは農業経営者育成高等学校へと変わり農業経営者の育成に努めてきました。

令和3年度入学生から学科再編により「農業科」「畜産科」「環境園芸科」の新体制がスタートしました。今回はその新学科と、学校生活の拠点となっている双葉寮、和牛甲子園で連覇を果たした畜産部について紹介します。



農業科

生産から販売の6次産業化



野菜や果樹などの生産、加工、販売など、フードシステムを体系的に学びます。また、商品開発やマーケティングなどの商業科目を学び、6次産業化に適応し、ビジネスを切り開く人材を育成します。



畜産科

鹿児島の黒ブランドを学ぶ

農産物の生産、加工、流通などを体系的に学び、6次産業化に適応できる人材を育成します。また、黒牛、黒豚、黒さつま鶏等、鹿児島の畜産ブランドを学び、将来の畜産物生産に貢献できる人を育成します。



環境園芸科

都市近郊型園芸のスペシャリストに



人と自然、環境の調和を昆虫学や野外活動を通し学ぶとともに、樹木・草花の栽培、フラワーデザインやガーデニングなど都市近郊型の園芸に関する技術を習得し、地域社会の発展を担う職業人を育成します。

学校生活の拠点
〜双葉寮〜

本校の「双葉寮」は全国農業経営者育成高等学校の指定を受け、将来の地域農業に携わる人材の育成を目指しています。これまで1年生全員に対して、1年間の義務入寮教育を行ってききましたが、本年度より農業科・畜産科の1年生の生徒のみが1年間（実質6ヶ月）の義務入寮となりました。

また、遠隔地に住む生徒には2・3年生



双葉寮 食事準備の様子

団訓

Our school specialties

わが校の名物

鹿児島中央高等学校

牛と共に夢叶える
〜畜産部〜

本校は、牛の生態や飼育管理を学ぶ「畜産」の授業の延長線上に、畜産経営を視野に入れた実践学習の場として「畜産部」を設置しています。「牛と共に夢叶える」を理念とし、優良牛の生産・育成を目指しています。そして、日々の活動を通して、生徒は、将来、畜産業に携わる意識と覚悟を育みます。

これまで、畜産共進会やホルスタイン共進会、枝肉共助会や和牛甲子園に出品し、活動の成果を実感してきました。

その中の「和牛甲子園」は、全国の和牛を学習する300校余りの農業高校が、日ごろの成果を競うために設けられた大会で、取組を競う「取組評価部門」と飼育管理した牛の枝肉を競う「枝肉評価部門」の2部門で評価されます。本校はこれらの取組が評価され、2連覇を果たしました。昨年度は、「健康な牛づくりこそ美味しい肉づくりである」という原点にかえて二つのことに挑戦しました。

一点目は、前年度同様に高オレイン酸含有のための経営面も考慮した飼料の選定。二点目は、肥育時、濃厚飼料の継続摂取が原因とされる「尿石症の予防」実験です。また、丁寧な飼養管理にも努めました。これらの挑戦の結果、出品牛は「まさに最優秀にふさわしい堂々とした素晴らしい枝肉だ。肉から日々の管理で健康な牛であることがうかがえる。」と高評価を頂き、日本一に輝くことが出来ました。

生徒たちは部活動を通して「牛」と「己」に真剣に向き合い、牛に関する知識と技術の習得だけでなく、「命」の尊さと、判断力・思考力・人間性を養います。そして、自分の人生を切り開く「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を備え、グローバル社会に対応できる人材として、羽ばたきます。

これからも「畜産部」は、牛と共に夢を叶えていきます。

（教頭 福島 聡）

本校は創立59年目を迎える普通科の進学校で、約950人が学んでいます。今年度は「可能性への挑戦」をキャッチフレーズに教育活動を展開しています。現在、校舎の建替改修工事が続いております。既に完成した新校舎で生徒は快適に学習活動に取り組んでいます。

本校では創立以来の伝統行事として、「団訓」と呼ばれる団体訓練を月に1回行っています。木曜日の6限後にグラウンドに集合し、クラスごとに整列して「かけ足」をします。男子が約200メートル、女子が約150メートルを、足並みを揃え無言で取り組みます。

これは柳直一初代校長が、人生の困難に打ち勝つには強い意志と体力が必要であると考え、始めたものです。「口を開かない、歩調を揃える、列を整える」の三つの約束を守ることで、社会生活、団体生活の根本に触れることもねらいの一つです。多くの教員が一緒に走り、師弟同行の精神も引き継がれています。

卒業後も年の離れた先輩と後輩が団訓の話で盛り上がり、まさに中央生のアイデンティティと言える行事となっています。

（教頭 山口 悟）



今年度1回目の「団訓」